

発達障がい児者支援に係る府民アンケート調査について

1 調査目的

府では、平成 26 年 3 月に「発達障がい児者支援プラン」（計画期間：平成 25 年度～平成 29 年度の 5 年間）を策定し、発達障がい児者の支援を行ってきている。

現行のプランが終了するのに合わせ、発達障がいへの理解度や、それに基づく合理的配慮がどの程度理解され、受け入れられているのか、その現状を把握するとともに平成 30 年度からの発達障がい児者支援施策及び今後の施策効果を検討する際の基礎資料とする。

2 アンケート方法

- ・ 民間調査会社（楽天リサーチ株式会社）に登録する WEB モニターのうち、国勢調査結果（平成 27 年）に基づき、性・年代・居住地（4 地域）の割合で割り付けた 18 歳以上の大阪府民 1,000 サンプル。
- ・ インターネットによるアンケート調査（「おおさか Q ネット」）を実施。

（注）「おおさか Q ネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

3 アンケート実施時期

平成 29 年 9 月 15 日（金）～9 月 20 日（水）

Q1 あなたの家族構成について、あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	n	%
全体	1,000	100.0
未就学児の子どもがいる	93	9.3
小学生の子どもがいる	70	7.0
中学生の子どもがいる	47	4.7
高校生の子もいる	59	5.9
高校生以下の子どもはいない	792	79.2

Q2 あなたは、「発達障がい」について知っていますか。

	n	%
全体	1,000	100.0
言葉も内容も知っている	477	47.7
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	460	46.0
知らない	63	6.3

Q3 前問で「言葉も内容も知っている」、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」と回答された方にお伺いします

発達障がいに関する以下の内容について、あなたが知っているものはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	n	%
全体	937	100.0
生まれつきの発達特性であり、親のしつけや家庭環境、ストレス等とは関係ない	600	64.0
相互的な対人関係や、表情やしぐさから相手の感情を読み取ることなどに困難が見られることがある	560	59.8
興味や行動の偏り・こだわりが見られることがある	565	60.3
注意欠如や多動性が見られることがある	620	66.2
読む、書く、計算するなど、学習に必要な能力の一部に極端な困難が見られることがある	538	57.4
チック※1 や吃音が見られることがある	304	32.4
公立小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がいの可能性があり特別な教育的支援を必要とすると思われる児童生徒は約 6.5%を占める※2	149	15.9
上記の内容について知っているものはなかった	114	12.2

Q4. 先程、「言葉も内容も知っている」、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」と回答された方にお伺いします。

発達障がいについて、何で見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。
(いくつでも)

	n	%
全体	937	100.0
テレビ、ラジオ	608	64.9
新聞、雑誌	301	32.1
インターネット	302	32.2
授業や講習、セミナー、シンポジウムなどのイベント	115	12.3
学校や職場等における発達障がい者に関する啓発・説明	150	16.0
官公庁からの広報物(チラシ、ポスター等)	43	4.6
その他団体の啓発チラシ、ポスター	41	4.4
家族、友人・知人から	283	30.2
その他:	28	3.0
覚えていない	69	7.4

Q5 前問で「授業や講習、セミナー、シンポジウムなどのイベント」と回答された方にお伺いします。

発達障がいについてのイベントはどこで行われたものですか。参加されたものをすべて選択してください。(いくつでも)

	n	%
全体	115	100.0
学校の授業で	65	56.5
公的機関や地域が主催するセミナーやシンポジウム	51	44.3
NPO 法人等、その他の団体が主催するセミナー	37	32.2
その他:	10	8.7
覚えていない	8	7.0

Q6.それぞれの障がいについて、あなたの考え・行動にあてはまるものを、すべて選択してください。

(矢印方向にそれぞれいくつでも)

	n	どのような障がい か理解している	相手にその障がいがある か判断できる	相手にとっての社会的障 壁(※)をイメージできる	社会的障壁を取り除くた めの配慮をイメージでき る	実際にサポートや声掛け を行ったことがある	左記にあてはまるものは ない
1.身体障がい	1000	578	411	291	206	162	224
%	100.0	57.8	41.1	29.1	20.6	16.2	22.4
2.知的障がい	1000	564	323	249	119	91	256
%	100.0	56.4	32.3	24.9	11.9	9.1	25.6
3.精神障がい	1000	467	171	191	94	65	358
%	100.0	46.7	17.1	19.1	9.4	6.5	35.8
4.発達障がい	1000	464	198	204	107	99	359
%	100.0	46.4	19.8	20.4	10.7	9.9	35.9

※ 社会的障壁…障がいのある人を暮らしにくくするような社会にあるもの全て(段差などの物理的な障壁だけでなく、人々の習慣や考え方なども含まれる)

Q7 .発達障がいは、生まれつき脳の一部の機能に障がいがあるものと考えられています。相互的な対人関係を取ることや、表情やしぐさから相手の感情を読み取ることの困難さ、じっとしていられない多動性・ものごとに集中できない注意欠如、読み書き等の特定の学習能力が著しく困難、などの症状が見られます。あなたは、これまでに発達障がいのある人と接したことがありますか。

	n	%
全体	1000	100.0
ある	328	32.8
今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人と接したことがある	191	19.1
ない	291	29.1
分からない	190	19.0

Q8. 前問で「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人と接したことがある」と回答された方にお伺いします。
その人とあなたとのご関係について教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	519	100.0
(ご本人を含め)家族、親戚、親しい友人・知人	156	30.1
学校関係の人	159	30.6
職場関係の人	105	20.2
福祉・教育分野などで、ご自身が専門職として接している相手	89	17.1
隣人、地域の住民(1以外)	109	21.0
趣味活動の仲間(1以外)	27	5.2
その他	61	11.8

Q9. 先程、「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人と接したことがある」と回答された方にお伺いします。あなたはなぜ、その人が発達障がい、又はその可能性があったと思われましたか。あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	n	%
全体	519	100.0
発達障がいの診断を受けたと本人から申し出があった	108	20.8
対人関係・コミュニケーションに著しく困難が見られた	282	54.3
興味・行動に著しい偏り・こだわりが見られた	224	43.2
行動に落ち着きがない様子が強く見られた	276	53.2
読み・書きなどの学習能力の一部に強い困難さが見られた	135	26.0
その他の言動、挙動に違和感を感じた	207	39.9
その他:	33	6.4
特に根拠はないが、何となくそう思った	19	3.7

Q10. 先程、「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人と接したことがある」と回答された方にお伺いします。あなたはこれまで、発達障がいのある人に対して以下のような行動をとった経験はありますか。(いくつでも)

※以下の選択肢にある行動は、あくまで発達障がいのある人一人ひとりの特性に配慮した行動と考えられるものの一例です。詳細は、大阪府ホームページに掲載しております、リーフレットをご覧ください。<http://www.pref.osaka.lg.jp/keikakusuishin/kankou/eeyan-tigattemo.html>

	n	%
全体	519	100.0
「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのような方法で」と具体的な手順(説明、指示など)を含めて話す	156	30.1
写真や図、絵などの視覚的な情報(説明、指示など)などの手法も併せて話す	113	21.8
相手に無理をさせていないか日ごろから気にかけておく	166	32.0
相手の長所を見つけ、肯定的に話をする	166	32.0
適切ではない行動を指摘するときは、その理由と望ましい行動についても簡潔に説明する	122	23.5
このような行動はとったことがない、機会がなかった	195	37.6

Q11. 発達障がいにおける社会的障壁(障がいのある人を暮らしにくくするような社会にあるもの)は人間関係等の環境面であることが多いため、発達障がいのある人にとって暮らしやすい社会の実現には、自治体や企業のみならず個人一人ひとりの配慮ある行動が求められます。あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

※次の項目にある行動は、あくまで発達障がいのある人一人ひとりの特性に配慮した行動と考えられるものの一例です。詳細は、大阪府ホームページに掲載しております、リーフレットをご覧ください。<http://www.pref.osaka.lg.jp/keikakusuishin/kankou/eeyan-tigattemo.html>

	n	できると思う	自身の負担にならない範囲なら行動できると思う	なかなか行動できないと思う	分からない
1.「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのような方法で」と具体的な手順(説明、指示など)を含めて話す %	1000 100.0	157 15.7	319 31.9	258 25.8	266 26.6
2.写真や図、絵などの視覚的な情報(説明、指示など)などの手法も併せて話す %	1000 100.0	127 12.7	277 27.7	328 32.8	268 26.8
3.相手に無理をさせていないか日ごろから気にかけておく %	1000 100.0	164 16.4	302 30.2	261 26.1	273 27.3
4.相手の長所を見つけ、肯定的に話をする %	1000 100.0	171 17.1	297 29.7	264 26.4	268 26.8
5.適切ではない行動を指摘するときは、その理由と望ましい行動についても簡潔に説明する %	1000 100.0	124 12.4	274 27.4	318 31.8	284 28.4

Q12. これまでの経験や前問を踏まえてご回答ください。あなたは今後、発達障がいのある人やその可能性があると思われる人と接する際に、その人の特性に応じて、配慮ある行動をとることができると思いますか。

	n	%
全体	1,000	100.0
行動できると思う	142	14.2
自身の負担にならない範囲なら行動できると思う	410	41.0
なかなか行動できない(あまり関わらないようにする)と思う	233	23.3
分からない	215	21.5

Q13.今後あなたが、発達障がいのある人一人ひとりの特性に応じた配慮ある行動を求められるとき、不安に感じることはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	n	%
全体	1,000	100.0
発達障がいかどうか分からない中で配慮ある行動はとれない	269	26.9
相手にとって何が配慮のある行動か分からない	501	50.1
相手にとって過度な配慮(お節介)になるような気がする	280	28.0
一人ひとりの特性を考える以前に、発達障がいのある人に対する配慮のある行動自体がイメージできない	172	17.2
1つ1つの行動が配慮あるものかどうか判断していくことがしんどい	233	23.3
その他:	7	0.7
特に不安は感じない	185	18.5

Q14.障がいのある人が不便を感じることなく日常生活を送るためには、社会の協力が不可欠です。障がいのある人に対して、負担になり過ぎない範囲でそれらの不便を取り除くためにとるべき行動を「合理的配慮」と言いますが、あなたはこの「合理的配慮」について知っていましたか。

	n	%
全体	1,000	100.0
言葉も内容も知っていた	111	11.1
聞いたことはあるが、内容はよく知らなかった	277	27.7
知らなかった	612	61.2

Q15.障がいを理由とした不当な扱いをなくすためには「合理的配慮※」の実践が求められる、という考え方に対して、あなたの考えに最も近いものを選択してください。

※合理的配慮とは、障がいのある人が困っているときに、その人の障がいに合った必要な工夫ややり方を相手に伝えてそれを相手にしてもらおうことを言います。

(例)聴覚障がいのある人に書類と手話で説明する。視覚障がいのある人に文書を読み上げるとともに点字の資料も併せて渡す。ただし、合理的配慮のために、例えば、お金がかかりすぎたりすることもあります。その場合、他の工夫ややり方を考えることとなります。

	n	%
全体	1,000	100.0
共感できる	190	19.0
ある程度は共感できる	496	49.6
あまり共感できない	50	5.0
共感できない	20	2.0
分からない、どちらとも言えない	244	24.4

Q16.学校や職場、地域などを含め社会全体として、発達障がいのある人にとって暮らしやすい環境になっていると思いますか。

	n	%
全体	1,000	100.0
そう思う	25	2.5
ある程度はそう思う	152	15.2
あまりそう思わない	396	39.6
そう思わない	209	20.9
分からない、どちらとも言えない	218	21.8

Q17. 平成19年12月、国連総会において4月2日を「世界自閉症啓発デー」とする決議が採択されました。また、厚生労働省では、この日から8日までを「発達障がい啓発週間」と位置付け、自閉症をはじめとする発達障がいへの理解促進のための啓発活動を行っております。あなたは、この「世界自閉症啓発デー」及び「発達障がい啓発週間」があることを知っていましたか。

	n	%
全体	1,000	100.0
どちらとも知っていた	55	5.5
「世界自閉症啓発デー」のみ知っていた	58	5.8
「発達障がい啓発週間」のみ知っていた	29	2.9
どちらとも知らない	858	85.8